

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校 学校番号 26

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体の育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成	
2 評価する領域・分野	◇学校経営・運営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒からは「本校の教育方針や指導目標を分かりやすく説明を受けている」が90%、「本校に入学できて良かった」が95%と高い評価を得ている。また、保護者からは「教育目標に共感できる」が94%「教育目標に努めている」が92%を占めるなど、生徒、保護者とも本校の教育方針や教育目標が理解され、満足した学校生活を送っている。 ・「施設・設備の学習環境面で満足している」は生徒75%、保護者80%と他項目に比較するとやや低いが昨年度と比較して、エアコン設置がなされたことで満足度が上がった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校運営及び教育活動などに関して、学校評議員、同窓会及び、生徒保護者等外部への情報発信と並行して、外部からの要望・意見を適切に聴聞し、地域社会への還元や参画等といった社会貢献や地域創生に係る取組により特色ある学校づくりを一層推進する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・大学や関係諸機関、地域産業界との連携をさらに強化し、地域に根差した特色ある学校づくりの推進 ・学校経営や運営に関する意見や要望等の聴聞（PTA、同窓会、学校評議員会等） ・学校ホームページの迅速な更新を継続	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
・外部人材による教育力を活用した課題研究発表 ・商品開発などの取組の推進や研修会の実施 ・PTAや同窓会、学校評議員会における意見や要望等を聴聞する機会の設定 ・教務部や専門教育推進部による学校ホームページトップページの更新と充実	・外部講師による教育活動の取組件数や評価 ・該当会議における意見・要望事項件数 ・本校ホームページの更新前後のアクセス件数	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・学科や教科を中心とした外部人材による商品開発や課題研究等を一段と充実させた。 ・PTAや同窓会より授業改善や施設設備の充実、本校として育てる望ましい生徒像等について示唆を受けた。 ・学校ホームページを見やすく・分かりやすい構造に改善を行い、更新頻度を向上させ、地域連携事業、学校行事、部活動成果等の迅速な情報発信にも努めた。	・年間を通して、外部教育力を十分に活用し、活力ある学校づくりの推進につながっているか。 ・各種会議への出席者から学校経営や運営にかかる意見や要望等を聴聞できているか。 ・本校ホームページのリニューアルによる「見やすさ・分かりやすさ」が生徒や保護者学校関係者から評価されているか。	[A] B C D A [B] C D [A] B C D
11 成果・課題	○大学や関係諸機関、地域産業界との連携を強化することにより経験を通して学ぶ環境を整えることができた。 ○会議時間の短縮やグループウェア活用等による「働き方改革」の推進により、職員のストレスチェックの成績がほとんどの項目で全国平均を上回ることができた。 ▲来年度に向け地域社会への還元や参画等といった社会貢献や地域創生に係る様々な取組を策定中である。	
12 来年度に向けての改善方策案	○創立117年を迎える西濃地区唯一の商業・情報に関する商業高校としての歴史と伝統を誇りにもちつつ、全国レベルの活力と特色ある学校を目指す。	

総合評価

[A] B C D

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・生徒が学習や部活動、資格取得に前向きに取り組んで成果を上げていることを高く評価したい。
- ・生徒が学校周辺の清掃を行ったり、吹奏楽部や家庭クラブ等が地元のイベントに参加するなど、地域にとってなくてはならない存在である。
- ・課題研究発表会では、生徒が各学科の専門的な内容を分かりやすく発表しており、学校での教育活動が充実していると感じる。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校

学校番号 26

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成		
2 評価する領域・分野	◇教務部（教育課程・学習指導）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生活実態調査の回答で「半分くらいの科目が理解できない」が10.2%、「ほとんどの科目が理解できない」が1.0%と、その合計値が過去3年比最小値であり、教員の授業改善が進んでいると思われる。I C T機器の導入も控えており更なる改善が期待できる。 ・生活実態調査の回答で「前もって計画を立てて勉強する」と回答した生徒が55.8%（昨年度54.1%）で、若干上昇した。計画的に学習する習慣を付けさせるため、スケジュール管理手帳の活用を推進する。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 確かな学力の確立 (1) 授業の工夫・改善による確かな学力の確立 (2) スケジュール管理の徹底による学習習慣（家庭学習等）の確立		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各教科との連携（教科会、授業研究会の充実） ・専門教育推進部との連携（資格取得のための支援体制の充実） ・学年会(部)、特別活動部(部顧問)との連携（家庭学習の習慣付け）		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 全教科で公開授業、全教員による授業参観の実施 (2) 授業改善に係る生徒意見の聴取と教員の改善計画、改善報告の実施 (3) 計画的な学習及び学習習慣の確立に向けたスケジュール管理手帳の活用推進	(1) 公開授業を実施する教科・科目数等 (2) 授業改善計画書及び改善報告書の提出 (3) スケジュール管理手帳の活用状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
◇全教科での公開授業、授業参観の実施 ・「主体的・対話的で深い学び」をテーマに全教科で公開授業を実施（11月）、全教員が参観し意見用紙を提出 ◇授業改善に係る生徒意見の聴取と教員の改善計画、反省の実施 ・授業改善に係る生徒意見の聴取(7月)、改善計画(9月末)、改善報告の提出(2月) ◇スケジュール管理手帳の確実な実施 ・毎S H R及び各授業、集会での活用推進	①全教科で公開授業が実施され、全教員が授業参観を行ったか。テーマに対する意識は高まったか。 ②授業改善計画書は全員提出され授業改善は進んだか。 ③スケジュール管理手帳は、毎SHRや授業等で活用され、計画的な学習、行動に結びついているか。	A ☒ B C D A ☒ B C D ☒ A B C D	
11 成果・課題	○生徒から授業改善要望を聴取した結果、多くの率直な意見が寄せられた。教員にとっては指導する上での気付きが得られ、授業改善に対する意識が高まった。 △「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした公開授業は、学校組織として十分な共通認識ができず、教員個々の捉え方で授業を実施するにとどまった。 ○ケジュール管理手帳は、クラス及び生徒により活用を工夫している。また、学年会等からの意見により手帳の内容等の改善を行っている。		総 合 評 価 A ☒ B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・新学習指導要領が提唱する生徒に身に付けさせる資質・能力を踏まえ、I C T機器を活用した学習指導、授業改善につながる教員研修を実施する。 ・生徒からの授業改善要望等に基づき、教員と生徒の良好な人間関係の構築の上に授業改善を進める。 ・スケジュール管理手帳は、工夫ある活用事例を紹介するなどして活用を推進する。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】
・先生の話や説明を聞くだけでなく、個人やグループで考えたりするなど、生徒自らが考えて学習する場面が多く見られ、充実した学習が行われていると感じた。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校 学校番号 26

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成	
2 評価する領域・分野	◇生徒指導部（教育相談）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校生活が「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えている生徒が約93%いる一方、17名の生徒は「楽しくない」「苦痛である」と答えている。その理由に「友人とうまくいっていない」と答えている生徒が6名いる。 ・「高校生としてのマナーや規範意識を身に付けさせるための指導を行っている」という評価は、保護者が93%、生徒は97%である。身だしなみ指導についても、保護者95%、生徒96%が評価している。 ・教育相談体制については、81%の保護者が評価している。 ・いじめ対応については、保護者78%、生徒87%の評価であるが、生徒の2%は評価しないと回答している。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 基本的生活習慣の確立 (2) 悩みを抱える生徒への対応 (3) 安全・安心な学校生活の確保	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・全職員による共通理解と協同体制の確立 ・学年、生徒指導（教育相談）、健康教育（保健室）、保護者、関係機関との連携 ・自治委員、MSLリーダーズの活動の活性化	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) ビジネスマナーの徹底 登校時の挨拶運動、身だしなみ指導、スマートフォン等の使用の仕方の徹底 (2) 悩みを抱える生徒への対応 学校生活アンケート年4回実施と教育相談の充実、いじめの早期発見 (3) 自治委員・MSL活動による交通安全運動や交通マナー啓発ポスター等の作成	(1) 遅刻回数、挨拶の状況、身だしなみ指導違反者の人数、学校生活の様子 (2) 教育相談室・保健室への来室件数、いじめの相談・報告件数、カウンセリング件数 (3) 交通事故件数、外部からのクレーム件数	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 身だしなみ指導違反、スマートフォン等の使用違反などについては、反省文やマナー指導カードでの指導としている。 (2) 生徒指導部会で学年、教育相談、保健室からの情報を集約。早期発見と早期対応に努める。 (3) 自治委員・MSLによる交通安全運動や啓発活動の実施。クラスごとの登校時挨拶運動の実施。	①反省文やマナー指導件数 ②身だしなみ指導の結果 ③いじめの報告件数 ④カウンセリング状況 ⑤交通事故件数	A ☒ B C D A ☐ B C D A ☒ B C D
11 成果・課題	○ビジネスマナーの徹底について意識は向上している。 ○身だしなみ指導違反、マナー指導カードでの指導件数は、減少している。 ○特別指導件数は、昨年より減少した。（現在2件、昨年同時期4件） ▲交通事故件数は、昨年より減少した。（現在16件、昨年同時期23件） ▲長期欠席者への組織的な対応の在り方。	
12 来年度に向けての改善方策案	全体的には、落ち着いた学校生活を送ることができている。大商生として目指す生徒像に近づくために、学年・学科・他の分掌との連携を図り啓発をしていく。交通安全に対する意識の高揚を図るため、自治委員会・MSLを中心とした啓発活動を充実させると同時に、外部講師を活用した講話等を実施していく。長期欠席者への組織的な対応としては、個別対応会議（仮称）を実施するなど学年会との連携を強化する。	

総 合 評 価

A ☒ B C D

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・校則については、生徒の多様性や個性を尊重するとともに、時代の考え方や価値観の変化に対応していく必要があるのではないか。
- ・校則の細かな規定を取り払うことで、ビジネスマナーの観点から生徒がT P Oに応じた言動を主体的に考える力を付けさせることができるのではないか。
- ・保護者の立場として、厳しいルールがあった方が安心して子どもを学校に送り出せる。校則が曖昧になると子どもがどのように変化するかがやや心配である。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校 学校番号 26

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成		
2 評価する領域・分野	◇進路指導（就職指導・進学指導）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「進路情報の提供」について生徒のA評価が5%上昇(H30:42%→47%)し、C評価は7%(H30:7%→7%)と変わらず。保護者ではC評価8%(H30:4%→8%)増加した。また「具体的な進路指導」については生徒のA評価は8%上昇(H30:44%→52%)し、保護者もA評価が3%(H30:30%→33%)上昇した。C評価(H30:6%→6%)と横ばいである。どちらにせよ今後生徒と保護者双方へ効果的な情報提供に努めていきたい。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇就職指導＝①内定率100% ②基礎学力・コミュニケーション能力の養成 ◇進学指導＝①志望する大学等への進学100% ②基礎学力の定着と大学入試センター試験に対応できる学力の養成		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・全職員による指導意識の共有 ・全職員による小論文・面接指導		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 就職指導＝①就職試験対策講座の充実 ②面接指導の強化 ③内定者に対しての継続学習 (2) 進学指導＝①週間課題(英語・国語)の実施 ②志望動機の書き方指導 ③合格者に対しての継続学習	(1) 一次試験合格者数、面接練習の進捗状況の把握 (2) 週間課題(英語・国語)の取組状況の把握と補習への参加状況 (3) 内定者・合格者の継続学習への取組状況の把握		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
(1) 就職指導＝①就職説明会の実施(4月) ②適性検査の実施(9月) ③進路指導部(6月)、業者(9月)による面接指導の実施 (2) 進学指導＝①小論文講習会(6月) ②週間課題(英語・国語)の実施 ③志望動機の書き方指導(9月)	就職 ①就職内定者100%達成 ②公務員希望者7名合格 ①国公立大学11名合格 公立短大6名合格 ②12月現在進路未決定2%	A B C D A B C D	
11 成果・課題	○昨年度よりも求人件数が10%増加しているが、校内での就職者が減少しつつある。前期末2名の不合格者も11月に合格。就職希望者61名合格となった。4月の就職説明会での意識付けや業者による面接指導、学年部との連携指導などの成果である。 ○国公立希望者への早期の対応や小論文特別指導等の取組の成果である。 △1月の時点で進路未決定者3名。 ▲保護者に対しての効果的な進路情報の提供の在り方。		総 合 評 価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・就職希望者への斡旋指導を、本人・保護者・ハローワークと連携を取りながらミスマッチにならない指導を実施する。 ・就職内定者に対して、今後の生活・学習態度についての指導を徹底していく。 ・進学希望者に対して、指定校推薦の意義と意欲的な学習姿勢の在り方を指導する。 ・来年度より大学入試改革の1年目となる。保護者、生徒に対してしっかりと情報提供を行う。・			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】
・世の中が急速に変化する環境の中で、地域の企業や学校と連携して生徒に様々な体験をさせることで、キャリア教育の推進にもつながっている。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校 学校番号 26

I 自己評価

1 学 校 教 育 目 標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成		
2 評価する領域・分野	◇特別活動部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ボランティア活動の大切さを伝え、地域との連携機会を増やす。 ・学校行事の実施方法や内容充実を行う。 ・保護者や外部への迅速かつ適切な情報提供の充実を行う。 ・部活動の活性化・統廃合の検討と関連情報の整備を行う。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の自主性や創造力を高めるため、各種行事の実施方法や内容を充実させ、生徒と職員とPTAが共同した学校行事を実施する。 ◇生徒の人間力向上と健全な心身の育成、ビジネスマナー徹底のため、各部活動にて方針や活動内容の見直し・改善を図る。 ◇全員加入制の意義を踏まえながらよりよい統廃合を考え取り組む。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特別活動部内組織 ・生徒会執行部と各種委員会組織 ・行事連携組織（渉外部・事務部・PTA等） ・部顧問会、部長会		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 特別活動部内および生徒会執行部との連携 (2) 全校生徒や全職員への働きかけ (3) 学校外部への情報提供	(1) 学校行事ごとの職員（生徒）アンケート (2) 部活動の結果および成果 (3) 外部アンケート（保護者・学校評議員等）		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評 価	
・学校行事に関する活動 ・部活動に関する活動 ・その他の活動（ホームルーム活動・ボランティア活動・地域との連携） ①各学校行事の内容等 ②各部の活動状況と関連した活動内容等 ③その他の活動内容等	①各学校行事の内容等 ②各部の活動状況と関連した活動内容等 ③その他の活動内容等	A B C D A B C D A B C D	
11 成果・課題	○前期生徒会が中心となり運営する2つ行事はその目的を概ね達せでき、生徒・職員共に比較的高い満足度を得ることができた。次年度に向けて、さらに内容の見直しを図っていきたい。 ○部活動では、非常に多くの部活動が全国・東海の競技会へと進出した。これまでの部活動に加え、コンピュータ部が新たに全国上位入賞（準優勝）を達成することができた。 ○ボランティアや地域貢献活動の充実にもむけ、有志を募り地域の清掃活動を定期的に実施できた。外部団体の活動にも範囲を広げて行きたい。 ○ホームページの活用し、部活動や学校行事の情報を定期的（月1回以上）に発信できた。		総 合 評 価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・地域や学校外の団体と連携してできる行事の充実を図る（ボランティア、生徒会活動など） ・ホームページを利用した情報発信の充実を図る ・部活動の在り方やそれに関する生徒対応について、職員で統一した認識を図る。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】
・部活動の取組や成果が、学校だけでなく地域の活性化に貢献している。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣商業高等学校 学校番号 26

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな体を育成 (2) 地域、家庭、学校の連携協力による明るく、活力ある、地域社会人の育成		
2 評価する領域・分野	◇専門教育推進部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・授業の進み方が早すぎる(15.2%)・先生の説明がわかりにくい(18.1%) ・勉強の方法がわからない(5.7%)などの結果から「わかりやすい授業」「魅力ある授業」の展開と学習方法の指導の工夫が求められている。 ・生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けてのキャリア教育の充実が図られている(生徒87% 保護者83%)と高い評価を受けており、専門教育においては各学科・類型で目指す資格取得の高い取得率を目指すことが求められている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学科・類型の目標とする検定資格の取得率向上と実践教育の推進 (1) 「分かる授業」・「魅力ある授業」等アクティブラーニング導入による指導方法の実施 (2) 学科・類型の目標とする検定資格の取得 (3) 地域社会との連携・地域教育力を活用した実践教育の充実		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・専門教育推進部全体として取り組む ・学科主任と各類型長との連携 ・科目担当者間の連携		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 研究授業の実施 (2) 授業展開の工夫、遅進者への手立てや検定資格取得対策補習の実施 (3) 地域と連携した商品開発や商店街への協力活動及び地域の学校・企業との共同研究における社会人講師による特別講座の実施	(1) 研究授業・反省会の実施 (2) 学科・類型の目標とする検定・資格の取得者数 (3) 成果物や参加した生徒の感想・アンケートによる把握		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
◇岐阜・西濃地区の商業科教員授業研究会の実施(10月)	①研究授業・反省会を実施し、授業改善につながったか。	A B C D	
◇授業進度を習熟度別にし、個々の理解度に応じた方策を科目「簿記」において実施	②習熟度の実施により、授業での遅進が解消されたか。	A B C D	
◇検定等試験日前の対策補習を実施 日商簿記検定(6・11・2月)、情報処理検定(9月)	③目標とする検定資格取得ができたか。	A B C D	
◇総合ビジネス科で地元企業との連携講座(商品開発)や商店街への協力活動(ポスター制作、商店街実地調査)と情報科の社会人講師による出前講座の実施	④専門的な知識や技術を身に付けると同時に、それらを活用し地域社会に貢献する力を発揮できたか。	A B C D	
11 成果・課題	○全ての学科・類型において、地元企業・学校等との連携講座又は商店街との連携を図り地域から学び地域に貢献できる人材の育成につながる機会(実践の場)とすることができた。また、社会人講師を活用した出前講座を実施し、日々の学習内容の重要性や意義を認識し、学習意欲の向上につなげることができた。 ▲各学科・類型で目指すべき検定・資格取得に向けて、更なる取得率の向上を目指す。日商簿記検定など出題範囲の改正や難易度の上昇に対する指導方法を科目担当者が連携し改善に努める。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	・各学科の特徴を生かし、全ての学科・類型において実施した「地元企業・学校・地域との連携事業」		

の内容の充実を図り実施する。

- ・授業研究会による研究授業・反省会を実施し、授業改善につなげる。
- ・科目担当者間の連携強化による指導方法の共有化を図り、資格取得率の向上を図る。

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月30日

【意見・要望・評価等】

- ・課題研究発表会は、学科の専門性を踏まえたバラエティに富んだテーマ設定がなされ、授業の過程においても興味をもって楽しく研究できたのではないかな。
- ・発表では自分の言葉で自信をもって発表しており、内容も十分理解できるものだった。
- ・情報科の特別支援学校と連携したアプリ開発では、ユーザのことを考えて作られている点が良かった。
- ・会計科の「湧き水巡りMAP」は、大垣市の街を楽しく巡ることが期待できる内容であった。取材時にもう一歩踏み込んで情報を収集し、さらに充実したものにしてほしい。